

# なぜ食品の容器包装のプラスチックは減らないのか？

安く購入できるため使い捨てするものが多くなる。

(リサイクル率が低い理由)

日本では硬質樹脂のものが多い

・同じ材質を集めなければいけない

→人の目では見分けることができないため高額の機器でしか分別できない

・再び同じ品質のものをつくることができない

→消費者が買ってきたものが結局処分される

・プラスチックが汚れているとリサイクルできない

→油汚れやゴミや木屑が落ちたため

・添加剤が含まれているから

→有害な物が非常に多いためリサイクルしたものが汚染される

↳ リサイクルしても製品の代替に付かないため環境に対する純利益はない

・リサイクルされる認識が緩和されプラスチック製品を買ってしまう人が多くなる。

・レジ袋を有料化しても逆に代替のプラスチック製袋を買う人が多くなるのでプラスチックゴミが増える

→消費者が増えるためゴミの量も増える

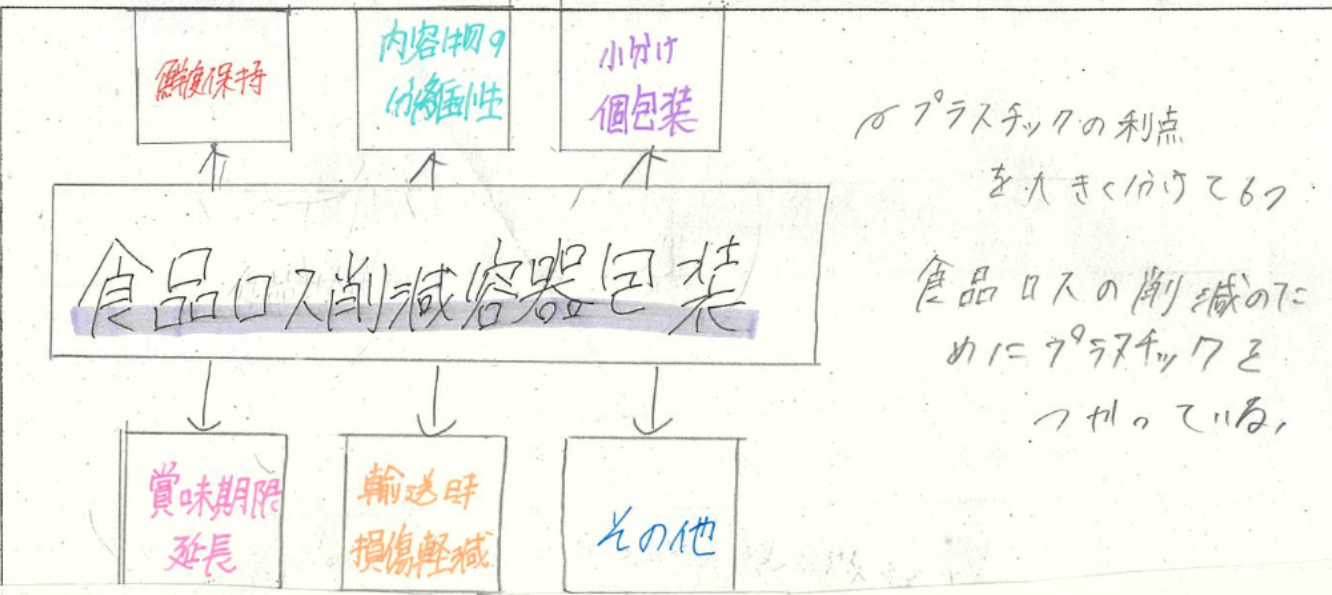
※足りない場合は裏または用紙にかく。データをロイロに提出OK。

## 調べたことからの気付き

プラスチックゴミを減らすためにしていたことも、実際には逆にゴミを増やしてしまっていることもあるのだと知り驚きました。まずはよく知ってからプラスチックゴミを減らすことができるようにしたいです。

# なぜ食品の容器包装のプラスチックは減らないのか？

6/8



プラスチックの利点を大きく削りつつ、食品ロスの削減のためにプラスチックをつかっている。

## ○ 鮮度保持

例	容器包装の特徴	鮮度保持期間の延長
レタス	鮮度保持袋	2~3の期間 → 1週間鮮度保持
醤油	醤油容器を特殊な逆支弁を付けたバケチ容器 PETボトルより39%減少	PETボトルでは、開封後30日だったのがバケチ容器で180日程度に！

プラスチックのものを使っていると使わないと期間短い  
前回使った包装よりも鮮度が保たれる

※足りない場合は裏または用紙にかく。データをロイロに提出OK。

## 調べたことからの気付き

食品ロスを防ぐために使われている、プラスチックの利点はあるが日本のリサイクル率は25%だから食品ロスを防ぐためにはプラスチックのことばかりではない。

# なぜ食品の容器包装のプラスチックは減らないのか？

## まず、食品包装にプラスチックを使う理由

プラスチック食品容器は高温で製造され雑菌の混入などを防いでいる。そのため、自然素材より衛生的。また、品質が劣化しにくいいため内容物の保存性能にも優れており、しかも軽量で低コスト、さらに柔らかい素材で作られているので内容物を保護し、品質が安定しているため、大量輸送、大量生産が可能

## 紙を使ったら良いのでは？

### 紙を使用することのメリット

紙の原料は「木」。木は自然分解が可能でリサイクルも可能。

植物由来の成分のため、カーボンニュートラルの考え方により、二酸化炭素の増加を抑えることが出来る。

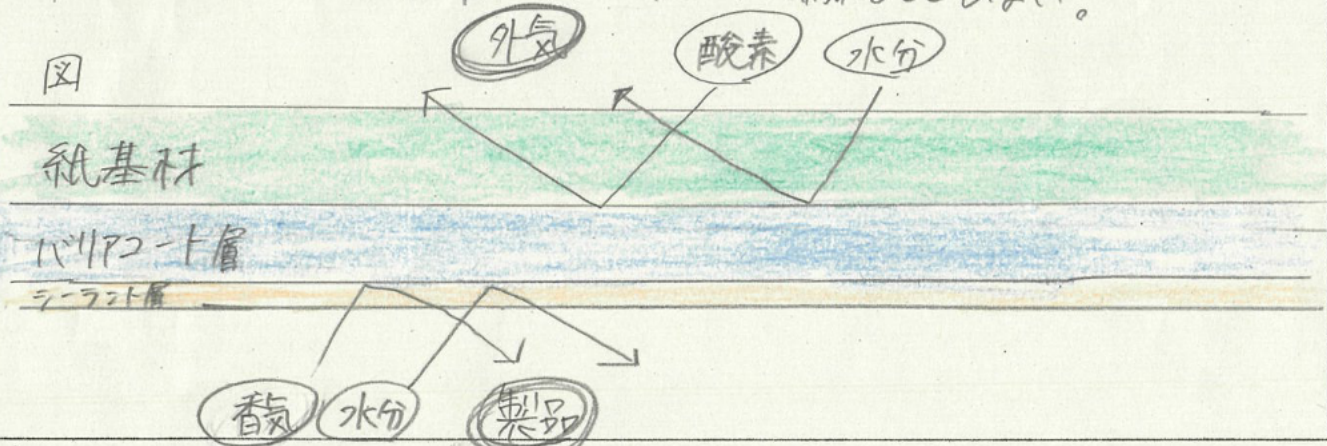
紙の場合使用することにより、一目でプラスチックではないということを消費者が認識できる。

### バリア性をもった紙の使用

今までは、紙を使用したパッケージにしようと考えても、紙はバリア性を持っていない為、バリア性が必要な食品には、紙+バリア性のプラスチックフィルムを組み合わせをしてみた。

そこで、環境に良い紙として開発されたのがバリア性をもった紙。保香性も抜群で、従来の紙とちがって臭いが漏れることもない。

図



※足りない場合は裏または用紙にかく。データをロイロに提出OK。

### 調べたことからの気付き

プラスチックの代わりになるものがあるのに、プラスチックを使っているのはすごくもったいないなと思った。